

郷の集い

発行 校部
 編集者 小文芸部
 編集者 新郷愛護会
 印刷 吉江源右門
 印刷 久野印刷

卒業する皆さんへ

校長 林 五十二

六年生の皆さん。はるばる六つもの峠を越えて、ようやく小学校卒業の第一関門にたどりつきましたね。スタートの時は今の半分にも満たない体しかなかった。ご両親も「どうか無事に関門を通過してくれよ。」と朝夕祈りをこめて守り育ててくださったに違いありません。

そのお陰で一人の落後者もなく、全員そろって到着したことを、ご両親とも心からお祝いしたいと思います。

いよいよ、中学校の第二関門を目差して出発ですね。今までのコースよりは大幅に違ってくるでしょう。第一には仲間がうんと増えてにぎやかで楽しみと、やりがいが出てきます。第二には教科ごとにお別々のたくさんの先生にお別れでき、勉強はちよとむずかしくなるかも知れないが、もっとすばらしい勉強ができて知識をうんと増やすことができます。第三には自分が選んで好きな勉強ができるクラブがあります。ここで自分の力を思う存分発揮させるのです。苦しさに負けて途中で止めてしまうようでは何をやっても満足なことはできません。クラブでがんばれる人こそ、中学校のめあてである。社会に役

私の所感

愛護会会長 小島英二

会員の皆様には、今年一年大変お世話になり、その上絶大なご支援を賜り、心より深く感謝いたしております。お陰様でPTA活動も順調に進み私達の任期もあと一ヶ月余りとなりました。私の心境は残る任期を切りにしていきたく思っています。中学に入れば高校入試といういばらの道があらはれ、激しい競争がくりひろげられることだと思ひます。しかし「競争は人と人の競争ではなくて自分の心との競争でなければならぬ。人と人とは逆に協力し合っていくのだ。」といわれています。

皆さんは心も体も最も成長していく大切な時期にさしかかっています。自分の弱い心に打ち勝つ心である「克己心」こそ、自分をよりつばに成長させていく原動力なのです。この自由主義の社会では自分の欲望に勝てる人でなければ、ほんとうの自由人ではありません。真の自由人となるための第二の関門を目差して力一ぱいがんばってください。うきことのおおの上に積みかさねていく。かぎりある身の力試さん。健康でりっぱな社会人となれる日を待っています。

私は今後も愛護会並びに学校の発展のために微力をささげたいと思っております。

校門

小西 誠

靴をかついで、ガヤガヤとみんで登校の道を急ぎ校門に入り、緊張して帽子をとって奉安殿に最敬礼、下足を止めて教室に入り靴を脱ぎ、授業が終って靴をかついて奉安殿に最敬礼、校門を出る。ほっとする。備えり道は解放感があつた。

家に着いて玄関で、掃りました。と大声で叫びながら急いで服を着替えて外に飛出す。幼稚園、小学校時代七年間の私の小さな思い出である。家と学校の節目は、校門であった。今の学校は誰もしない。下校に校門を通らぬ。仮に校門を通っても何の感激もないのでなかろうか。切だと思ふ。

学級長の任期を終えるにあたって

篠崎 レイ子

今年の日本列島は、十数年ぶりの異状寒波に見舞われ、寒い冬となりました。ここ二三日は、暖かい日ざしが差しはじめ、春はもうすぐという感じがいたします。私が学級長になりましたから、早や二年の月日が流れようとしております。

何をしたらよいのか、もたもたしている内に私の心を知ってか知らずか、任期の二年間が過ぎていってこれそうです。

右も左もわからぬ私のような未熟者が重責ある学級長をやることになったのですから、母親学級に携わっておられる先生方には、迷惑のかけどおしでした。

祝卒業

小嶋 和子

六年生の皆さん、おめでとうございます。私が本校へ寄せたいたいて、はじめてうけもった皆さんは、まだ小さな一年生です。あれからもう六ヶ年の月日が過ぎました。いっしょに勉強した二年間の事や、五年生の家庭科の時間、バトミントンにかかるに修学旅行にと、成長された皆さんと共に過ぎた楽しい思い出の問題等もあると思ひますが、廃止の意見もありませんので、今後の課題としてみんなで考えなければなりません。

卒業生のみなさんへ

五年 白崎

六年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。今年、特に大雪で集団登校のときは、ほんとうによく世話をしてくださいました。そのほか児童会や部落子ども会のこと、いろいろわからないことを、よく教えてもらいありがとうございます。

これからは、みなさんがきずかれた立派な校風を守り守って、一生けんめいがんばっていきましょう。みなさんは、芦原中学校へ行かれたら勉強に運動に力いっぱいがんばってください。ではさようなら

卒業に想う

「母を語る」



紺谷 博文

卒業おめでとう。ご父兄のみならずご苦労さまでした。今、私は本当に幸せです。自分で歩き、自分で考え多くの方々に助けられ生きて居られること、身体を父母に受け、今日まで生かされて戴きました。

私の母は、一昨年永年の旅路に立ちました。母は春江町高江に生まれ、小嶋の浅川に嫁し、夫と死別し、

選んで見て

松樹 正夫

早いもので三人目の子供が巣立つ日を目前にしています。小樽の学校より本校にご厄介になるとき随分悩まされたが、田舎の本校を選んで大変良かったと喜んで居ります。

気候の良さに加えて都会に比べ回りに理科等の教材が豊富なことや、又プールが完成したことや、小規模校にしては、すぐれた設備と、クラブにトラソケット鼓隊があり、子供にとっても誰にも誇れるすばらしい母校だといえます。卒業される皆さんも何時までも健康で母校の名に恥ないよう、明るく朗らかな人になって欲しいと思います。

伊藤政治(私の父)と再婚して、五人の子を生み六人の子を育てました。一人は政治の先妻の子で私には一番上の兄で政富と申します。兄は中学校(福井中学校)へ入学するまで、実の母と信じていたといふことでそれを知ったのは、戸籍抄本を学校に出すため役場に向いて吏員の方から知らされたと言ふことです。以来今日まで私共は、母二人を考えたこと一度とてありませんでした。母は、私達に親和と実礼の尊さを自身で教えてくれました。母は病気でしたが、心はいつも健康でありました。政富兄は、私の結婚のとき母を悲しませてはいけな悲しい事だといふ言葉で祝ってくれました。今この言葉をみなさんに贈りたいと思ひます。

卒業に
思うこと

田畑 一

私の子供は幼稚園の年少組の途中に福井より転園して来ました。早や八年になり小学を卒業となりましたが、本間に走馬燈のようになっています。その間先生方の熱心な教育により我が子が他のお子さんと一緒に卒業出来ると思うと心より嬉しく思います。本間に有がとうございました。新郷小では十三名のクラスメイトで、家族的な教育を受けましたが、反面競争心が足りない面もあるかと思いますが、中学では多勢の中に入っていくので母校の新郷小学校のためにも頑張りたいと思えます。そうすることがお世話になった先生方へのなによりのお礼になる事を忘れないで欲しいのです。又君達みんなが力を合せて頑張る事により後に続く下級生達の励みになる事も忘れないで欲しいのです。最後に、卒業生みなさんの御健康を心よりお祈りします。

寺地 十

小さなころは、字さえ読めなかつたのに、だんだん大きくなるにつれて、字が読めるようになりました。勉強も、よくするようになりました。

私の願いは、友達を大切に元気に育ってほしいことです。先生方には、とてもお世話になりました。



卒業にあたって

竜田 一

「光陰矢のごとし」入学したのもつい昨日の様に思えるのに早や六年の歳月が経ってしまいました。夏の炎天、寒い冬、雨の日も一生懸命登校した甲斐があり今日ここに卒業を迎える様になりました。

振り返るとこの子が学校に入学した頃は、文字通り西も東もわからず平仮名さえ読めなかつた幼児であつたのに、今では是非と善悪の判断もつき下級生の世話も出来る様になりました。以後中学に入り勉強を続けるのですが中学生になつたら、これまで以上に熱心に勉強して、新郷小学校の卒業生だと言われる様に頑張りたいと思います。

ランドセルが重そうで、後えかたむきそうだった一年生。教育相談日など、黑板より、廊下の方ばかり気になり可愛いものだったのが高学年となり勉強が段々むづかしくなり十二時過ぎても勉強机に向かう日が多くなり体がこわさないかと心配したが、それでも頑張つて、体も心も大きくなつて来てくれた。

小嶋 一

仰げば尊し我が師の恩の歌声が流れると間もなく中学校だが、数に圧倒されることなく新郷時代の意気を見せてほしい。光陰矢の如し、中学時代は小学時代の半分しか時間がない事を忘れずに。

詩
子どもの春

鍋谷

あの小さかつた子どもが今、見ると、もう中学生小さくて泣き虫だったのに今は、もうわらわらと、私もある笑顔を聞くと、私もあつてしまふ。

小さな小さな一年生だったのに今度は大きな大きな中学生だがなんとなくさびしいでも笑顔をたやさず生活にスポーツに頑張つてほしい。

母親学級

南 一 丁

移り変りの激しい今日十数年前、我が子と共に入学して以来、母親学級の一員として、又母親として学んでまいりました。

この長い年月を顧みれば勉強不足だったことが残念でなりません。どうか今日の世代に育つた若いお母様方、今以上に勉強して明日の日本を背負うお子様と、よりいっそうの母親学級を育てていかれることをお祈りいたします。

東出 十

桜の咲いたころ、入学したのに、もはや卒業です。この六年間、りっぱに育つてくれました。今、思い出してみても、こんなに大きく育つてくれて、親の私

としても、とつてもうれしく思っています。それも、これも、みんな感謝していきまふ。

これからは、中学生になつても、小学校時代より、さげみ、友達を大切に人になつてほしいものです。

竜田 一

六年前我が子と入学式に校門をくぐりましたことは夢のようでもあります。六年間いろいろのことがありましたが、一年生のとき忘れものがあり、夜三回まで買物に走つたこと、四年生のとき、泣きながら遅くまで宿題をさせたこともありましたが、今卒業を目前にして思うことは、人様のことを少しでも考えられる子に育つたことが何よりも嬉しいことと感謝しています。

これからは、このまま健康で心豊かな女の子として育つてほしいものです。

小嶋 一

もうすぐ、小学校を卒業し、中学校にはいる年になつてしまいました。小学校に入学したことが、ついでこの前のようなのに、はや中学生。この六年間、ずいぶん成長しました。中学校にはいってからは、勉強をしっかりとってほしいと思ひます。その他、多くの友だちの中で、自分の心を良くみ

つめ、養ひ、明るく、元気な女の子に育つてほしいものです。先生方本当にお世話になりました。ありがとうございました。

金沢 一

入学した当時は、あんなに小さかつた子供も、はや私を追いこすまでになり、今では私の方が、小さくなつてしまいました。

大きくなるのはうれしいことですが、好みも、近ごろでは私と悲しいようになつてしまふ悲しいようでもあります。

でも、子供が成長することとはうれしいことです。これからは、大きく育つて元気な子になつてほしいと願つておきます。

先生方、本間に有りがとうございました。これから御健康に留意され御元気にすごされますようお祈り申しあげます。

小嶋 一

小学校に入学して、早や六年、その間にはいろいろのことがありました。いつまでも子どもと思つていたのに、一人前の話を聞いて聞かされてくれるときなど、自分を忘れて聞き入り

ます。ときの経つのは早いもので六年の間にわが子は、本間に大きく育ちました。これからは、身体と心が一緒に成長して欲しいことを願つておきます。千加子は名に恥じない立派な良し子に育つてほしいものです。先生方やお世話になつた関係の方々に心からお礼申しあげます。

小嶋 一

もう卒業です。小学校の六年間は長いと思つていましたが、もう卒業式が間近になりました。これと云つて病氣もせず元気で学校へ通つたことは本当に幸せでした。これからは、元気で立派な中学生になつてほしいと思います。先生方には、長い間種々とお世話になりました。ありがとうございました。

部会

六年 竜田 一

私は放送部。四年生から六年生までずっと続けてきました。「おはようございます。」から始まって、「あしたまで元気で会いましょう。」で終る。苦しい事もたくさんあった。言うのをまぢかえておられたりした。でも今では、それも思い出の一つだ。

私のほうふ

六年 金沢 一

私が今したいと思つている事は、世界中ずうとまわつてみたいなあということです。ちよつとむずかしいかな。でも、なるべく行きたいなと思つておきます。

ぼくの思い出

六年 小嶋 一

この六年間、いろいろなことがあった。けれども、一番おもしろかつたのは、運動会だった。準備係で応えんもできなかったけど、やっぱり楽しかった。

私の思い出

六年 竜田 一

この六年間、いろいろなことがあった。中でも特に心に残つたのは、修学旅行だ。友だちどうしの初めての旅行。今でも、強く心に残っている。

私の思い出

六年 東出 十

私は、最後の運動会で、鼓笛隊の指揮者になつた。「やってみないか。」と言われたとき、とてもはさかしくていやだつた。楽器を吹いている人々たちを見ると、少しうらやましかつた。でも、やつてよかつたと思つている。

ぼくの思い出

六年 寺地 十

とてもおもしろかつた学習発表会、みんないっしょうけんめい練習した。雪だるまや、すべり台を作つた冬休み。楽しいことがいろいろあった。でももう卒業だと思つても何となくさびしい気持だ。

私のほうふ

六年 小嶋 一

私は大人になったら、日本中を旅行したいと思つておきます。まだ私の知らない所がたくさんあるので、北海道のはしから沖縄のはしまでまわつてみたいと思つておきます。

私の思い出

六年 鍋谷 一

それは運動会だった。その中で、一番よかつたのは玉入れ競争だ。玉を投げてもらって入らなかつた。でも最後は二つ入つた。よかつた。とてもうれしかつた。

私の思い出

六年 小嶋 一

この六年間いろいろな事があつた。その中で一番心に残つた事は入学式の時だ。初めは心配だつたけれどだんだん落ち着いてきた。私はこれからもこんな思い出を大事にしたいと思つておきます。

小学校での思い出

六年 松樹 一

私は保健部にいた。よく先生に、「赤ちゃん、持つてこい。」と、言われた。とてもいやだつた。これからは、先生に言われても、いやがらないでしようと思つておきます。

ぼくの思い出

六年 小嶋 一

この六年間、つらかつたりうれしかりたりした。でも、もう卒業する。待ちに待つた中学生だ。とてもうれしい。もうこの学校ともお別れだ。

ぼくの思い出

六年 田畑 一

思い出はいろいろあるけれど、先生におられた事が心に残つておる。頭をたたくられたりした時は、とてもはがかつた。でもおもしろい事がいっぱいあつた。

私のほうふ

六年 南 十

私は、中学校になつたら小学校でできなかった事をいっぱいやりたいな。まず、友だちをたくさんつくりたい。そしていろいろな事をやってみてほしい。